

比較すれば次の如くである。

宗教	一九三九年	一九三三年	總數の増減率
新教教會所屬者及 其他の基督教徒	四二%	四四%	(+) 三%
羅馬カトリック	四三%	四七%	(+) 二%
ユダヤ教	四%	四%	(-) 五%
會所屬者	一%	一%	(-) 一%
非基督教の宗 教團體所屬者	一%	一%	(-) 一%
神を信する者	一%	一%	(+) 四%
信仰なき者	一%	一%	(-) 一%
報告なき者	一%	一%	(-) 一%

(備考) 一九三三年度はザール地方を除く。舊領域内は六月一六日、ザール地方は三五年六月二五日、オストマルクは三四年三月二日、メデーレン獨逸地方は三四年二月一日の調査結果に依る。

(以上 一九四一年第九號)

ボヘミア及モラヴィア兩獨逸保護領の 一九四〇年人口動態

出生	死亡(除く)	自然増加	婚姻	出生	死亡(除く)	自然増加
一九三〇年	三三、三〇七	四一、八三五	九、五	一九三〇年	九、五	一九三〇年
一九三一年	三三、三三五	三九、三九六	九、二	一九三一年	九、二	一九三一年
一九三二年	三三、三五五	三九、三六四	九、〇	一九三二年	九、〇	一九三二年
一九三三年	三三、三五六	三九、三七一	八、六	一九三三年	八、六	一九三三年
一九三四年	三三、三六一	三九、三六四	八、三	一九三四年	八、三	一九三四年
一九三五年	三三、三六一	三九、三六四	八、〇	一九三五年	八、〇	一九三五年
一九三六年	三三、三六一	三九、三六四	七、九	一九三六年	七、九	一九三六年
一九三七年	三三、三六一	三九、三六四	七、七	一九三七年	七、七	一九三七年
一九三八年	三三、三六一	三九、三六四	七、七	一九三八年	七、七	一九三八年
一九三九年	三三、三六一	三九、三六四	七、七	一九三九年	七、七	一九三九年
一九四〇年	三三、三六一	三九、三六四	七、七	一九四〇年	七、七	一九四〇年

尚、乳兒死亡率は(出生百に付)一九三九年には九・五、昨四〇年は九・二となつてゐる。

(Wirtschaft u. Statistik 1941 Nr. 8)

外國に於ける癩の流行史

(埋め巻)

外國に於ける癩流行の歴史は實に古いものであつて、恐らく有史以來のことであらうと謂はれてゐる。地域的にはエジプト、印度、支那をその三大根源地と見做してゐる。就中印度、支那の癩は今尚猖獗を極めており、又フィリッピン、布哇、ジャバ等南太平洋の諸島に多數存在し、更に又南米ブラジル方面にも相當に存在する。エジプトの癩は一部アフリカに流行し、今も相當に濃厚な分布をみておるが他は西暦紀元前六〇〇年頃ペルシヤに流行し、次でギリシヤローマに這入つて來

たと稱されておる、其頃は未だ地中海沿岸のみであつたが、十字軍の遠征等によつて中部歐洲へも蔓延したものと考へられており、五世紀頃に歐洲でも相當な流行があり、十五世紀十六世紀頃までもかなり多數の患者發生を見たものである。是等流行の状態を窺ふ事の出来る資料は當時の繪畫であつて、ウキーンンの美術館に陳列されたペーテル・ブルユーゲルの繪やハンス・ポールバインの繪がそれである。前者は市井雑踏の圖でこの中に確に癩と思はれる患者が徘徊してゐるし、後者はエリザベス女の圖で聖女が癩患者を勞つてゐる様子を見はしたものである。

斯の如く盛な流行を示した悪病も、西歐に於ては十

七世紀頃から漸次減少し、十九世紀には益々減少して今は殆んど無癩の域に達してゐるのである。英・米・獨・佛等には癩患者は殆んどなく、若干あるも異民族で他國から輸入されたものであり、諸威の如きも十九世紀頃には二、六〇〇人の癩があつたものが、二十世紀の初めには、二、四三三人になり、一九二五年には僅かに一〇餘名となり、已に無癩の域に達してつたのである。かく歐米諸國では既に豫防事業に成功して居るといふことは、我國民として大いに銘記せねばならぬ事である。

(財団法人癩豫防協會編 我國の癩豫防事業に就てより)